

令和5年度 宍粟市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

- ①地域住民への認知症の正しい理解の啓発
認知症に関する講演会や講座の開催、市の取り組みの周知
認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の開催支援、認知症キャラバン・メイト連絡会の開催
チームオレンジの支援
- ②認知症ケアの質の向上
専門職研修の企画、調整
- ③多職種連絡会の企画、調整
認知症施策検討会
- ④認知症の人やその家族への支援
認知症の人やその家族に対する相談支援、家族のつどいの開催
オレンジカフェ（認知症カフェ）の運営支援、オレンジカフェ連絡会等の開催
認知症初期集中支援事業の推進
高齢者等見守り支援（SOS登録）や高齢者声かけ訓練・伝達訓練の実施
- ⑤認知症ケアパスの見直しと普及、リーフレット作製

報告者氏名: 吉田典子 菅谷美佳 取越かおり

宍粟市 認知症施策全体図

認知症の人や家族が 安心して暮らせるまちをめざして

認知症施策の推進

認知症施策検討会

適時・適切な医療・介護等の提供

相談窓口の普及・啓発
認知症地域支援推進員の配置
認知症初期集中支援チーム
認知症予防健診

人材育成

認知症介護専門職研修

予防

フレイル・認知症予防運動教室
認知症予防講座、講演会

家族介護者への支援

オレンジカフェの普及、啓発
オレンジカフェ連絡会
当事者、家族のつどいの開催



普及・啓発活動

認知症講座・講演会
認知症に関する取り組みの周知
世界アルツハイマー月間での啓発活動

認知症サポーターの養成・活用

認知症サポーター養成講座
認知症サポーターステップアップ講座
認知症キャラバン・メイト連絡会
チームオレンジの立ち上げ

ひとり外出見守り・SOSネットワーク

GPS機利用支援
見守りSOSネット
SOS協力機関伝達訓練
高齢者声かけ訓練

権利擁護

標題 宍粟市におけるチームオレンジに向けた取り組み

1 チームオレンジの立ち上げに向けて 《ホット・カレン》

ボランティアグループとして配食サービスや地域の高齢者の見守り活動をされていた。
平成29年2月にオレンジカフェ（認知症カフェ）を開設。行政や社会福祉協議会のみならず、主催者の思いに賛同した地域の企業や施設が協力し、徐々にその輪を広げて活動をしている。

活動するうえで困っていたことに対して地元の企業等が地域貢献として協力
参加人数増加のための広い会場：地元企業の会議室を無料で利用
ひとりで来られない人のための送迎：地元の特別養護老人ホームのデイサービス送迎車が空き時間で送迎

令和4年秋 主催者にチームオレンジについて説明し、立ち上げを検討していく。
→今の活動がチームオレンジの活動といえる
ステップアップ講座の受講（スタッフはサポーター養成講座は受講している）
令和5年6月 ステップアップ講座を開催する。

認知症サポーターステップアップ講座

場 所：ホット・カレン
対 象：ホット・カレンスタッフ 7人
講 師：元特別養護老人ホーム職員（看護師）、キャラバン・メイト
内 容：・認知症の人の気持ち ～思いを理解して関わる～
DVD視聴、講話、意見交換
・意見交換

令和5年9月 チームオレンジ登録



標題 宍粟市におけるチームオレンジに向けた取り組み

2 チームオレンジの活動

○配食サービスを通じての高齢者の見守り支援

○オレンジカフェ（認知症カフェ）

毎月第1金曜日午後1時～2時半

活動の様子

- ・送迎車担当スタッフと会場準備スタッフに分かれて活動開始。
- ・送迎車スタッフは玄関まで迎えに行き声をかける。（帰りは玄関まで送る）
- ・参加者が集まりだすと、お茶とお菓子が配られおしゃべりを楽しむ。
- ・認知症の人、認知機能が低下している人などは前もってスタッフ間で情報共有されている。
- ・レクレーション、講話など毎回様々なプログラムが準備され、スタッフも参加する。
- ・カフェ終了後には参加者の様子や気になった事など情報共有し、次回の活動につなぐ。

Aさんの場合

スタッフが以前から様子が気になっていた近所のAさん。認知症地域支援推進員に相談したりして様子を見ていたが、思い切ってAさんの家族に心配していることを打ち明けると、すぐに家族は病院で相談し認知症の診断が出た。

その後介護保険サービスの利用はなく、民生委員が訪問しても受け入れが悪いのに対し、スタッフが声をかけるといきいき百歳体操やオレンジカフェに参加し始めた。前もって日時を伝えても忘れてしまうので、当日の朝スタッフが声をかけている。オレンジカフェに参加された時はスタッフが交代で様子を見守っている。

標題 宍粟市におけるチームオレンジに向けた取り組み

ホット・カレンのスタッフは忙しくても常にみんな笑顔です。
みんなが「地域のために」と活動され、オレンジカフェではみんなで楽しい時間を過ごしています。

対応について「今日も誘ったけど来なかった。次はこんなふうに言って誘ってみよう」などみんなで意見を出し合います。

地域の方は自分が作った野菜を持って来たり、企業はお弁当の入れ物を提供したり、自分たちができることを協力しておられます。

主催者は「大変なことはない。一人でしているんじゃないから。チーム ホット・カレンだから」と笑って話されます。



• 最後に・・・

チームホット・カレンは地域を巻き込んだボランティアグループです。行政や社会福祉協議会も加わり、オレンジカフェは様々な人と人がつながっている集いの場所です。参加した人みんなが楽しく幸せな気分になります。今後、このカフェでは認知症サポーターだけでなく、当事者も役割を持って活動ができるよう検討しています。みんなで認知症の事を理解し、共生社会に向けて自分ができることから始めてみませんか。まずは「オレンジカフェ参加者」という役割からはいかがでしょうか。